

## 第4学年 国語科書写学習指導案

### 市教研統一研究主題

「自ら学び心豊かに生きる力を身につけた児童生徒の育成」

### 平成27年度書写部会 研究主題

一人一人が主体的に取り組む書写学習のあり方

#### 【仮説1】課題意識のもたせ方の工夫

児童・生徒一人一人が自分にあった課題をもち、自分の文字について振り返りの方法がつかめれば、文字を書こうとする意識が高まるであろう。

#### 【仮説2】支援の工夫

児童・生徒一人一人が自分の力で解決できるような支援の工夫をすれば、学習意欲が喚起され、主体的に取り組むであろう。

#### 【仮説3】評価方法の工夫

学習のねらいや実態に応じた評価の規準を明確にすれば、児童・生徒は文字感覚が豊かになり、日常の書写学習に生かすことができるだろう。

授業日時：平成27年6月16日（火）

授業者：川内 麻奈美

授業展開：4年3組（31名）

協議会会場：第一会議室

千葉市立北貝塚小学校

## 第4学年3組 国語科書写学習指導案

千葉市立北貝塚小学校

川内 麻奈美

### 1. 単元名 筆順と字形 「左右」

### 2. 単元について

第四学年の全体の主なねらいは、点画同士の関係を理解し、字形を整えて書けるようになることである。児童は、三年生の時に書写の基本点画について学習している。しかし、一つ一つの基本点画は書けても、それをどう組み立てれば字形が整うかに目がいつている児童は少ない。そこで、四年生の毛筆学習では、字形の整え方のポイントを児童自身に考えさせ、気付かせていきたい。また、字形を整えて書くための自分に合った課題を見つける力も養いたい。

本単元では、筆順と字形の関係について学習する。正しい筆順に従って書くと字形が整えやすくなる。『左』と『右』は、筆順の違いが字形の違いとして表れている典型的な例である。筆順と字形の関係を理解し、常に正しい筆順で書く意識がもてるようにしたい。『左右』では、それぞれの「横画」「はらい」の長さの違いについて考え、筆順との関係について気付かせたい。『左』と『右』の文字の成り立ちから、一画目は「指」を表しているので短く、二画目は「うで」を表しているので長いということを知ることによって、字形の違いをより意識付けられると考える。また、『左』と『右』では、一画目と二画目の長さが違うので、結果的に外形も異なることをおさえたい。

児童は、『左右』の筆順について、一年生の時に学習している。また、三年生までの硬筆学習で、筆順の原則（上から下へ、左から右へ、横画を先に書くなど）も学習しているが、実態調査をみると、正しい筆順で書けている児童は少ない。多くの児童が、筆順を意識せずに書いているようである。今回学習する『左』と『右』は筆順の違いによって、画の長短や方向が変わり、字形が乱れてしまいやすい。本単元の学習を通して、正しい筆順で書くと、字形が整うことに気付かせていきたい。

そのために、本時では前時の復習として分解文字を操作する活動を取り入れる。正しい筆順で分解文字を置くと同時に、画の長さのちがいにも着目させ、本時のめあてをしっかりとつかませたい。また、書き込みのできる手本を用意し、練習前に自己批評する時間を取り入れる。分解文字と手本を比べる活動を通して、どこに気を付ければ字形が整うのかを児童自身で気付かせていきたい。また、気付いた課題は、その都度手本に書き込ませ、積み重ねていく。基準や字形を整えるために気を付けるポイントを書き込んだ手本を見ながら書くことで、課題を意識させ、主体的に取り組ませたい。

3. 児童の実態 平成27年5月8日調査 調査人数31人

【関心・意欲】

◎書写の学習は楽しいと思いますか？

とてもそう思う 21人 そう思う 6人  
あまりそう思わない 1人 そう思わない 3人

<理由>

- ・字を書くのが好きだから ・毛筆が好きだから ・字がきれいになるから
- ・紙に上手くおさまらないから ・字が下手だから ・字を書くのが好きではないから

◎ふだん、字を書く時に、筆順に気を付けて書いていますか？

とても気を付けている 5人 気を付けている 21人  
あまり気を付けていない 0人 気を付けていない 5人

<理由>

- ・字が曲がってしまうから ・筆順は大切だから
- ・急いで書いていると気を付けられないから

◎ふだん、字を書く時に、どのようなことに気を付けて書いていますか？

- ・バランス ・姿勢を正す ・筆順 ・字を間違えないように ・一画一画ていねいに
- ・鉛筆や筆の持ち方 ・全体のバランス ・半紙を押さえて書く

◎字形を整えて書くには、どのようなことに気を付けて書けばよいと思いますか？

- ・筆順 ・バランス ・文字がマスの中におさまるように ・姿勢 ・同じ大きさ
- ・ていねいにゆっくり書く ・紙がずれないように押さえて書く ・集中して
- ・書く場所や手本をよく見て書く

◎書写の学習を通して学びたいことを教えてください。

- ・きれいに字を書くコツを知りたい ・毛筆が上手になりたい
- ・先生みたいな字が書けるようになりたい ・穂先の向きや点画の上手な書き方
- ・硬筆や小筆で名前がきれいに書けるようになりたい

◎書写の学習を通して、なりたい自分を教えてください。

- ・字をきれいに書ける自分 ・どんな文字も丁寧に書ける書写名人になりたい
- ・硬筆をきれいに書けるようになりたい ・賞をもらってみたい
- ・先生や友達のような字が書けるようになりたい
- ・自分が納得できる文字が書けるようになりたい

## 【技能】

◎『左』と『右』の一画目と二画目を正しい筆順で書けるか。

『左』 ○ 21人 × 10人

『右』 ○ 19人 × 12人

◎硬筆で書いた『左』の特徴

・一画目が二画目より長い（3人）

・一画目と二画目の長さが同じ（7人）

・二画目の方が長い、一画目が少し長すぎる（5人）

◎硬筆で書いた『右』の特徴

・一画目が二画目より長い（16人）

・一画目と二画目の長さが同じ（11人）

## ○実態による考察

今回の実態調査を通して、児童は「字が上手になりたい。」という願いを強くもっていることがわかった。しかし、普段のノートや連絡帳の文字を見ると、学年が上がるにつれて文字を書く量が増えてきているためか、右上がりに殴り書きをするように書いたり、文字がマスや罫線から大きくはみ出したりする児童も多く見られる。児童は、関心・意欲は高い反面、字形を整えて書くことにあまり意識が向いていないように感じる。

また、硬筆で書いた『左』『右』の文字を見ると、一画目と二画目の長さの違いに気付いていない児童が多かった。特に、『右』がクラスの約9割ができていなかった。原因として、正しい筆順を覚えていないことや、一画目と二画目の画の長さの違いに意識が向いていないことが考えられる。

本時では、筆順に気を付けて、字形を整えて書くことがねらいである。『左』と『右』は筆順の違いによって、画の長さが変わったり字形が変わったりする場合がある。筆順に注意することによって、整った文字になることと、筆順の大切さを指導したい。

そのために、筆順をしっかり押さえ、一画目と二画目の画の長さの違いに目を向けさせるように、分解文字を操作させ、練習用紙で技能の定着を図りたい。そうすることで、学習に対する意欲が高まり、正しい筆順で、字形を整えて書くことができるようになるだろうと考えた。

#### 4. 単元目標

- 筆順と字形の関係を理解することができる。
- 筆順に気を付けて、字形を整えて書くことができる。
- 筆順と字形を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。

#### 5. 学習計画 (3時間扱い)

第一次 毛筆の学習 (2時間)

- 筆順に気を付けて書こう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- 正しい筆順で、字形を整えて書こう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間 (本時)

第二次 硬筆の学習 (1時間)

- 筆順のきまりを知り、字形を整えて書こう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

#### 6. 本時の学習

(1) 目標

- 筆順と字形の関係を理解し、字形を整えて書くことができる。

(2) 本時の学習で検証する仮説

##### 【仮説2】支援の工夫

児童・生徒一人一人が自分の力で解決できるような支援の工夫をすれば、学習意欲が喚起され、主体的に取り組むであろう。

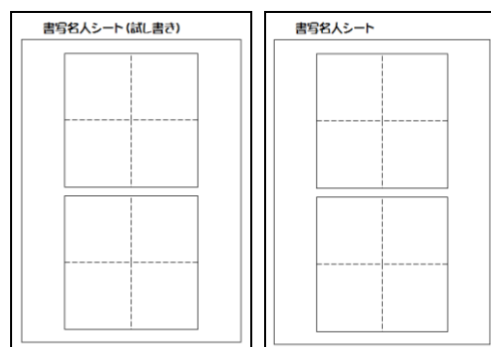
##### ① 書き込みのできる手本

教科書 P14・15 の原寸大教材文字に課題が書きこめるようにしたものを手本として用意する。正しい筆順や一画目と二画目の長さの違いを手本に直接書きこむことで、筆順や「横画」と「左払い」に着目させる。そして、基準や字形を整えるために気を付けるポイントを書き込んだ手本を見ながら書くことで、課題を意識することができる。と考える。



② 書写名人シート

前時の復習として、ラミネート加工をした書写名人シートにホワイトボード用のマーカーで『左右』を書く。この時、一画目は赤色、二画目以降は黒色で書くようにする。一画目のみ色を変えることで、意識が一、二画目の横画と左払いに集中し、本時の学習課題をよりつかむことができると思う。



③ 練習用紙

自分の課題にあった練習用紙を選択して練習すれば、主体的に取り組めるであろうと考え、3種類の練習用紙を用意する。

- i 外形と始筆入り (三、四、五画目が用紙に書かれている)
- ii 外形と始筆入り
- iii 外形のみ

(3) 展開 2 / 3

過程	学習活動と内容	教師の指導と評価	資料・教具
気付く (五分)	1. 書写名人シートに『左右』を書く。 2. 班で見せ合い、誰の文字が一番字形が整っているか話し合う。	○筆順に意識が向くように、一画目は赤色、二画目以降は黒色で書くように声をかける。 ○班で一番字形が整っている人の書写名人シートを、前に持ってくるように声をかける。	拡大手本 前時の掲示物 書写名人シート ホワイトボード用 マーカー2本 (赤・黒)
つかむ (五分)	3. 字形が整っている人たちの文字に共通点がないか話し合う。 ・『左』は左払いが長いから、縦長の字形になるね。 ・『左』はプリンの形に似ているね。 ・『右』は横画が長いから、字形が横長だよ。 ・『右』はコップの形に似ているね。	○本時は、一画目と二画目の点画の長さと字形に着目して考えるように声をかける。  ○自分が書いた文字の外形を確認するよう、声をかける。	ホワイトボード用 マーカー (青)

	<p>4. 自分のめあてを決め、手本に書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・点画の長さに気を付けて書きたいな。</li> <li>・『左』と『右』の字形の違いに気を付けよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあてが決まったら、手本に青鉛筆で書くように声をかける。</li> <li>○赤鉛筆で書いてある前時のめあてを引き続き、取り組む場合は、その部分を青鉛筆で囲むように声をかける。</li> <li>○気を付けることを具体的に書くように助言する。</li> <li>○めあてが決まらない児童には、黒板の掲示物を見て考えるように助言する。</li> </ul>	<p>前時使用した手本</p>
<p>高める (二十分)</p>	<p>4. 筆順による字形の違いに気を付けながら、練習用紙に練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 外形と始筆入り (三、四、五画目が用紙に書かれている)</li> <li>ii 外形と始筆入り</li> <li>iii 外形のみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のめあてに合った練習用紙を選ぶように助言する。</li> <li>○練習用紙で何回か練習した後は、半紙でも練習するように声をかける。</li> </ul>	<p>練習用紙</p>
<p>まとめる (十五分)</p>	<p>5. 毛筆と硬筆でまとめ書きをし、前時のまとめ書きと比べる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価(技) 筆順による字形の違いに気を付けて書けたか。</p> </div> <p>6. 隣同士で相互評価をして、練習の成果を認め合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・字形の違いがしっかり出ているね。</li> <li>・二画目が長く書けたね。</li> </ul> <p>7. 次時の学習を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○落ち着いて取り組めるように、姿勢を確認し、一斉に行う。</li> <li>○筆順による字形の違いに意識して書けたかどうかを中心に、練習の成果を確かめるように助言する。</li> <li>○前時のまとめ書きと見比べて、良くなったところにイイネシールを貼るように声をかける。</li> <li>○数名に、前時と比べて良くなった友達を発表させる。</li> <li>○毛筆の成果を硬筆に行かず練習をすることを伝える。</li> </ul>	